

令和４年度印西市地域公共交通会議
第１回ふれあいバス見直し検討分科会 会議録

開催日時	令和５年３月１日（水）午後３時３０分から午後４時１５分
開催場所	印西市役所 別館１階 農業委員会会議室
出席者	刈谷高博委員、茨木隆郎委員、井原幹雄委員、野中イツ子委員、 檜山雅紀委員、酒井保治委員、石井隆委員、三上達也委員、 高倍宗一郎委員、板谷和也委員
欠席者	根本友也委員、徳永昌子委員
事務局	交通政策課 本多課長、小林係長、秋本係長、桑原主査、堀内主査補
傍聴者	０名

次 第

- １ 開会
- ２ 課長挨拶
- ３ 議題
（１）ふれあいバスの運行見直しについて
- ４ 閉会

会 議 録

1 開会

(事務局) ただいまから、令和4年度第1回ふれあいバス見直し分科会を始めさせていただきます。

2 出欠の報告

(事務局) 本日は、10名の委員の皆様にご出席いただいております。

(事務局) 本日は事前の情報提供を含めまして、各委員の皆様の意見を伺いまして、議決につきましては、3月17日の地域交通会議の場で諮りたいというような形を考えております。

3 課長挨拶

(事務局) それでは、次第に沿って進めてまいります。課長挨拶になります。

【 課長挨拶 】

4 議題

(1) ふれあいバスの運行見直しについて

(事務局) それでは、議題、ふれあいバスの運行見直しについて、事務局から説明いたします。

【 事務局説明 】

(C委員) いつも、市民の皆様には、弊社のバスをご利用いただきまして、また、関係者の皆様には平素よりご指導いただきまして、この場を借りて感謝申し上げます。

ふれあいバスの所要時間の見直しにつきまして、運行会社として実態等を1つ申し上げさせていただきます。私、2年半前から、このちばレインボーバスで社長をやらせていただいております。その前は、京成バスという別の会社におりました。10年程前まで、実は私も20年間印西市民やっております。そんなにしょっちゅう乗っていたわけじゃないのですが、時々、ふれあいバス、レインボーバスの路線バスも利用しておったのですが、今度は自分が仕事として関わるようになって、1番最初にやったことは当然、全路線の路線バスの状況はどうなのかというところを確認することですが、その時の率直な感想なのですが、ふれあいバスに乗ってみますと以前に比べると随分飛ばしているなど。それが本当驚きだったのです。やはりよくよく調べていきますと、印西市自体が人口増、街が賑わってこれは大変いいことなのですが、人が増えて、当然ご利用が増えて、停留所も幾つか増えたり、そうすると先程事務局様からご説明ありましたが、乗降のための時間がかかったりだとか、やはり人口が多くなりますと当然、商業施設が増えて道路状況も循環が悪くなるというところで、やはり、以前定めた所用時間を適宜見直していく必要があるのかというふうに感じた次第です。

これやはりバス事業では、コミュニティバス以外にも、自社経営の路線も適宜やっているところでございます。どうしても、お客様がバス停で待っている。お待ちいただく時は、寒い日もあれば暑い日もある。やはり、ご用事があってお出かけになっているわけですから、何とか決められた時間通りに走りたい、お客さんをお届けしたいというような気持ちですが、正直、私はやはりこれは安全運転上問題があるから無理しなくていいのではないかと何度も説いてきたのですが、やはり、お客様を目の前にしますと、無理に無理を重ねてしまうというのが、これはどのバス会社においても同じです。

当社の従業員は約40%位が印西市民です。同じ市民が、実際のところ今日も運転手代表がおりますが、何人かの従業員に話を聴いてみますと、やはり、どうしてもこういった大切なお仕事を仰せつかっている以上は、しっかりとやりたいということで、どうしても運行上スピードを出してしまうのが正直なところでございます。

私もう1つは、これは今もやっているのですが、この会社に来る前、別のバス会社で11年程、安全運転の指導をやっておりました。今は、独立行政法人自動車事故対策機構という組織がありまして、その千葉県のバス部門の指導担当をやらしていただいているのですが、安全運転において1番重要なのは何ととってもスピード、コントロール。スピードを出さない。正直、それに尽きるのかと思っています。やはり、早いスピードですとぶつかった時の衝撃はもちろん大きくなります。安全運転に1番大事なのは安全確認。確認する時間のスピードが1.5倍になれば、確認する時間が3分の2減ってしまう。当然そうすると、見落としの可能性も出てくる。もう1つは、スピードが早くなるほど人間というのは視野が狭くなるのです。どうしても身体的な構造上、そういったことが起きてしまうと、そういった学術的な資料もあるのですが、やはり安全運転を指導する側からすると、スピードを抑えるというのは、これやはり安全運転の基本でございます。

また、特に乗り合いバスは、時間に間に合わないということで焦ってしまいますと、普段だったら出来ていることでも何か抜けてしまう。こういったことはやはり往々にしてあるわけございまして、決して不要に長く時間を取りたいということではなくて、最低限必要な、現実的に、実際これは試走もいたしました。私どもは、折に触れて市内を巡る中、調査してきたつもりではございますが、実態に即した必要な所用時間といったところであるのであろうというふうに考えておりますので、申し上げさせていただきました。

私からは以上でございます。

(事務局) ありがとうございます。その他ご意見、ご質問等あれば、よろしく願います。

(B委員) 時間も大事ですが、安全面も大事にして欲しい。

(C委員) 現時点では何とかそういったところで、決して余裕はないのですが、従前と比べますと、改善されていると伺っております。ただ、ダイヤというのは、やはり状況によってかなり変わってきます。例えば、2020年の7月から、フレアイカの導入がございまして、私の母もいただいておりますが、70歳以上の方は運賃が無料ということでかなりご利用が増えていますので、そういった状況は常に変わっていくものであります。

(B委員) 余裕を持って運転して欲しい。事故は怖いので。時間的には余裕で走れるのだろうけど。予定より早くバス停に着いてしまった時は待っているのですか。

(C委員) ふれあいバスに限らず、路線バスでもそうですし、他社様のコミュニティバスとかも見ていますけども、時間を合わせるというのはバスの基本です。

(B委員) はい。

(事務局) ありがとうございます。

(A委員) 高齢者連合会の〇〇です。

以前からお願いしていた松山下の件と本埜公民館の件。両方とも駄目だということを知りまして、それ自体は仕方がないかもしれないのですけど。やはりどちらでも、道路改良すれば上がれるという話なので、道路改良を進めていただけたらありがたいと思うのです。どんな感じなのですか。

(事務局) それが可能性としてどれ位できるかといったようなお話でしょうか。

(A委員) そう。松山下のロータリーの道幅を拓けるとのこと。公民館の坂の勾配を変えるという話です。道路が駄目だからできないのはわかります。

でも、本当に考えていただきたい。500mで坂、バス停じゃないですよ。本埜公民館前、やはり考えていただかないと。松山下で高齢者クラブの行事をやることが多いのです。運動会はじめ色々やりますので苦情が出ています。ロータリーの道の所を拓けていただければ済む話なのというふうに思っています。申し入れていただいて、市として考えていただくということはできないのですか。

(事務局) まず、本埜公民館の乗り入れの件ですが、確かに道路の改良を行うと車両が物理的に入るようになるという点は、確かにお話しいただいた通りでございます。ご説明の中でも別の話の仕方にはなっていましたが、車両自体が、ある程度バス車両が大きいために道路環境が厳しいという件がございます。その車両自体をポンチョのサイズ、バスサイズからいわゆる小型化、こうしてハイエースのような車式を用いることによりまして上まで上がっていくこと自体は一応可能とはなっていて、それを現在、印旛本埜支所ルートが、このポンチョで走っていること自体がございまして、車両の小型化という可能性もあるのかなというところではあります。定員数の面で現在乗っている人数がそれなりにありますので、車両の小型化イコール即乗り入れは可能になりますが、乗りこぼしが出てしまうような変更になるのは検討の余地あるのかなというのが現在のところでございます。今後、現在の印旛本埜支所ルートの今の形のままずっとやるというよりは、ルート改編等を審議会等でもちょっとお話させてもらっている部分にあるのですが、前回のルートの見直しを今後行っていく中で、そのルートの改編とともに、車両の小型化を導入することにより、乗り入れができるような方法を検討していきたいというのが本埜公民館についてはございます。

(A委員) わかりました。

(A委員) それで松山下の方です。

1年に1度か2度は、こういう状態になる時はあると思います。確かにこうなれば困りますけれど、公園の方、松山下の体育館のところへ昔上がっていたわけですから、ちょっと拓けていただくというのは、印西市の土地なのでから可能だと思えるのですけれども、そういう検討は今後していただけるのですか。やはり駄目ということですか。どんな感じなのですか。

(事務局) 松山下公園について、ご回答させてもらいたいです。おっしゃるとおり、昔はバス停がロータリーに上がっていたという話は調べた限りではございます。平成18年度まではロータリーまで上がっていたようで、その時のルート時刻の見直しに合わせまして、下に移設した経緯があるというのが調べた限りではございます。記録の限りで移設の経緯としましては、その時の理由が、速達性重視ということで、ルート全体と時刻の見直しの中で、この速達性、ロータリーまで上がるだけで早めに行けるだろうという意味で改編をしているようでございまして、その

時というのは、松山下公園の施設の状況も違っていきまして、大きい体育館が無かったという状況もあるのですが、決してその時にも上がっていたことによって、全く遅延していなかったという状況ではないのかなという推測があります。当時の状況について、詳細についてはわかりかねるところでございますが、イベント内容によっては、遅延という課題が実際はあったのではないかとこのところでございます。説明の中でもお話しさせてもらった部分であるのですが、松山下公園の施設改修、全体的な改修等の時に、ロータリー等の車幅等を拡げることに關しての協議等は担当部局とさせてもらいたいとは思いますが、ロータリーの件につきましても、ロータリーの車幅だけ拡げることによって、完全にコミュニティバスは全く渋滞なく遅延なく行けるかということも、それが完全保証されるかということもありますので、そういった点も踏まえて担当部局と話をさせてもらいたいと思っております。

今回の見直しにつきましては、上に上げること自体を速達性といいますか、遅延対策というのもございますので、見送らせていただきたいというところがございます。

(A委員) 引き続き、とにかく近くへ停めていただくことを、停めなくてはいけないということに進んでいていただきたいと思います。

道路の問題であるのですから。先ほどの本埜公民館もそうです。公民館の敷地内の道路は印西市の内部施設なので、やろうと思えばスロープの改良ができるわけですから、何とかその辺、関係部署へ推して欲しい。500m、ちょっと酷いです。愚痴になりますけども、本埜では殆どのクラブが公民館で色々な催しをやっています。バスで行っているわけではないですが、今年から2つのクラブがなくなります。安食ト杭ともう1つ。理由は、指導者というか会長さんとか役員さんが車を運転できなくなるので送迎ができない訳なのです。そういう形でクラブが解散になるのです。甘えているのかもしれませんが、やはり行政の方のできることはできるだけ、やって欲しい。本当に前向きって言うか、これで止めるのではなく考えていただきたい。全部印西市の中で収まる話ですから、松山下と本埜公民館、是非やっていただければと思います。

(事務局) はい。ありがとうございました。

(事務局) その他ご意見ご質問いかがでしょうか。

(事務局) D委員から何かございますか。

(D委員) 色々な意見があろうかとは思いますが、今回重要な点である遅延対策に対して意見を出しながら実態に合わせて安全安心な運行をしていただくということで、私としてはご提案の通りに進めていただきたく思っています。一方で停留所の件については、今のままでは市民の皆さんのニーズに応えられていない部分があるようですので、引き続き、より良いバスが実現できるよう、ルートの見直しを含めて検討を進めていただきたいと思います。

(事務局) その他、ご意見、ご質問等なければ、こちらの案を、3月17日の交通会議の方にお諮りしたいと思っております。そちらでよろしいでしょうか。

【 はいの声あり 】

(事務局)

そうさせていただきます。

本日いただいたご意見につきましては、今後、参考にさせていただいて、様々活用させていただければと思います。

5 閉会

(事務局)

これで会議の予定については終了になります。

なお、本日の報償につきましては、後日振り込みさせていただきますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。